

福島県の南端。いわき市の

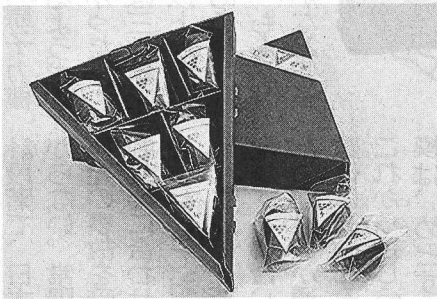
小名浜港周辺には、水族館「アクアマリンふくしま」や展望塔「いわきマリントワー」などがあります。東日本大震災で一時休業に追い込まれましたが、今も人気の観光スポットです。マリントワーに立ち寄った時、よく買い求めていた土産が「めひかり塩

東北 復興日記



▶▶ 203

まだまだ



一般社団法人IkiZen
代表理事
齋藤由布子さん



チョコで包む 福島の味覚

チョコ」。地元の魚として親しまれるメヒカリの形をしたチョコレートの中に、クリーミーな塩キャラメルが入った逸品です。震災後の物産市でも頻繁に目にします。

製造するのは、市内で創業十年の「いわきチョコレート」。沿岸から一キほど内陸にあり、津波の被害は免れました。しかし、津波と福島第一原発事故で頼みの観光客が激減。県内産のフルーツを使った商品は風評被害にも苦しみます。ダブルパンチにも柳沼大介社長は屈することなく、新機軸を打ち出しまし

た。従来の観光土産中心の販売戦略を見直して、都市部の女性をターゲットに販路を拡大したのです。

もともと手作業で商品を作る上げる工程には自信を持っていた同社。生キャラメル入りのチョコを挟んだクッキーや、リング「紅玉」の果汁を使ってチョコでコーティングした商品を、次々に首都圏へと送り込みました。いずれも高い品質を誇るものばかりです。

が薄くて種のないブドウを原料にしました。独自の製法で生み出された味わいの素晴らしさは、数々の賞を獲得していることでも証明済み。今年、仙台市で開かれた「新東北みやげコンテスト」では、入賞の栄誉に輝きました。

巨峰醇菓は一箱三千元(税込み、送料別)。問い合わせは、いわきチョコレート＝電話0246(53)5265、ホームページ＝<http://www.shiochoco.com/>＝く。

※この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。